

平成 25 年度 第 1 回青少年問題協議会会議録 (要旨)

日時 平成 25 年 6 月 28 日(金)

午前 10 時から

場所 市役所 6 階 602 会議室

議題 1

1 平成 25 年度和光市青少年健全育成重点目標(案)について

青少年問題協議会委員 承認

2 平成 24 年度和光市青少年関係機関・団体の事業報告及び平成 25 年度事業説明について(生涯学習ガイド参照)

青少年問題協議会委員 承認

3 青少年健全育成標語募集要領(案)について

青少年問題協議会委員 承認

4 青少年健全育成作文募集要領(案)について

青少年問題協議会委員 承認

5 会議テーマ「青少年の体験活動の推進」について

・中学生は夏休みに社会体験活動として、2 年生が職場体験活動を行っている。市内、朝霞市、練馬区、板橋区などの近隣の事業所に 40 から 50 の協力をいただいている。また、社会福祉協議会の協力により、車椅子体験、手話体験を実施している。夏休みに、希望により福祉体験ボランティアを実施、さつき苑、ゆめあい和光の協力により 4 日間の体験活動の実施。

・和光高等学校では、社会体験活動を 11 月に 5 日間、100 の事業所に協力してもらって、行っている。

・和光南特別支援学校では市内の中学校と交流を深めている。
共生社会の中で障害を持つ子どもたちが、力強く自立して欲しい。
ぜひ、和光南特別支援学校を知っていただいて、ともに体験活動を学びあっていくことができればと、考えている。

本校の生徒だけではなく、すべての学校で体験活動が重要だと思う。

体験活動では体力の向上が見られたが結果はすぐに出ない。

成果については、じっくりと見ていく必要がある。

・ジュニアスキー教室が 3 月の末から 2 泊で実施しているが、人気の事業で、

滑れなかった子どもも、上から降りてこられる状況で、生き生きとした子どもたちの表情が見られた。子どもたちにとって、良い体験活動だと思っている。

- ・平成 20 年に育てる会連合会の結成 30 周年事業として、スマイル事業を行った。子どもたちを募集して、33 名が集まった。

子どもたちの会議で街の名前「和光スマイルシティ」が決まった。

10 回の会議を経て、街を開催したのが平成 22 年の 5 月。当日 2500 名の子どもたちが集まり、街をつくった。子どもたちだけで、50 ものお店をつくり、街を形成した。子どもたちが自分で考え、実施した。

- ・防災関係で中学生の力がどれだけ、発揮できるか？

いざとなったときに、お年寄りを避難誘導していく。地域の中に中学生の力を生かしていく。

- ・中央教育審議会では平成 20 年 4 月に青少年の体験活動の答申が出ている。

地域・社会が青少年の体験活動をしていかななくてはならない。

なぜ 青少年の体験活動が必要なのか？

- 1 生活体験活動
- 2 自然体験活動
- 3 社会体験活動

3 つのバランスがとれていることが大切

子どもたちは体験がされていない。われわれがどういう取り組みをしなければならぬか？

具代的な取り組みをやっているところもある。

防災キャンプの体験事業を提言しているところもある。

地域・社会で取り組んでいくことが大切。

出席者 松本市長、大野副市長、佐久間、猪原、上篠、大久保、石井、木田
加山、榎本、大谷、本橋、富澤（美）、内田、高野、斎藤、菅原、村山
小林、田中、山崎

事務局 こども福祉課長、産業支援課長、生涯学習課長、スポーツ青少年課長
スポーツ青少年課長補佐、担当(中蔦・萩原)

傍聴者 なし